Press release

2014 年 3 月 19 日

村田　智幸
日本におけるエボニック グループ
グループ コミュニケーションズ
TEL 03-5323-7391
FAX 03-5323-7399
tomoyuki.murata@evonik.com

2013年エボニック グループ業績発表

戦略的に成功を収めた 2013 年 － 厳しい市況下で堅調な業績

クラウス・エンゲル取締役会会長「戦略的に目指すべき方向性は達成されました：エボニックは今や上場されたスペシャルティケミカル企業であり、業績としては厳しい状況の中でも堅調な結果を残すことができました」。

・2013 年の業績：
- **・グループの売上高は 129 億ユーロ、既存事業の売上高はほぼ安定して推移。**
- **・調整後 EBITDA は 20 億ユーロと、前年度の極めて高い水準からは減少。主に販売価格の変化が影響。**
- **・調整後 EBITDA マージンは 15.6 パーセントと高い水準を維持。**

・当期純利益は前年比 76 パーセント増の 21 億ユーロを計上。不動産部門の売却益が寄与。
・設備投資は前年比 18 パーセント増の 11 億ユーロを計上。
・研究開発費は 3 億 9,400 万ユーロと高水準 ― 売上高研究開発比率 3.1 パーセント。
・2013 年の配当案：一株当たり 1.00 ユーロ（2012 年：0.92 ユーロ）。
・2014 年の見通し：売上高は微増の見込み（2013 年：129 億ユーロ）、調整後 EBITDA は 18 億ユーロから 21 億ユーロの間と予測（2013 年：20 億ユーロ）。

エボニック インダストリーズ（ドイツ・エッセン）は 3 月 7 日に業績発表を行い、クラウス・エンゲル取締役会会長は、次のように述べました。「エボニックは昨年、証券取引所への上場を果たしました。また夏には不動産部門における大半の持分を売却し、今後もスペシャルティケミカル企業としてしっかりと先を見据えていく所存です。2013 年は成長戦略の上で大きな前進が見られました。当社の投資案件の中でも先駆けとなる大型プロジェクトは完了しました」。

2013 年の経済的状況は、全般的に見て予想以上に厳しいものでした。販売数量が増加した一方で、販売価格が下落したことが業績の低下につながりました。エンゲルは、「厳しい市況の中においても、当社の業績は堅調だった」と語り、次のように強調しています。「今後もオペレーションや管理面での効率性をさらに高めて、体系的にコストの改善を図っていきます。そうした対応が当社の競争力と利益率の高い成長を維持する戦略の下支えとなるでしょう」。

エボニックは、2014 年の売上高が前年比で若干増（2013 年：129 億ユーロ）になると予測しており、調整後 EBITDA は 18 億ユーロから 21 億ユーロの間（2013 年：20 億ユーロ）になると見込んでいます。

エボニック ジャパン 株式会社
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モノリス 12F

www.evonik.jp

2013 年の業績

売上高はグループ全体でほぼ安定して推移 – 業績は堅調

2013 年は当社にとって重要であるアジアや北米地域における経済成長の低迷により、当社の最終顧客の業界ひいては当社の業績がその影響を被りました。ヨーロッパで長引く低迷の影響も受けました。こうした厳しい市況によって、販売価格に対し大きな圧力がかかり、一部の事業では価格が大幅に崩れました。それとは対照的に世界規模において、需要に依然として力強さが見られたのは大いに勇気づけられることであり、その結果特に 2013 年下期の販売数量は前年同期比で明らかに増加しました。

既存事業における 2013 年のグループ売上高はほぼ安定して推移し、前年比でわずかに 1 パーセント減少しました。この減収は主に販売価格の低下（－5 ポイント）が要因ですが、販売数量は増加（＋4 ポイント）しています。主に 2012 年の 2 件の小規模事業の売却に起因するその他の要因（－2 ポイント）と為替相場の影響（－1 ポイント）とが相まって、グループ全体の売上高は 4 パーセント減の 128 億 7,400 万ユーロ（2012 年：133 億 6,500 万ユーロ）となりました。

今年度の事業収益は、前年度達成した水準には届きませんでしたが、これは主に一部の主要事業で販売価格が下落したことによります。全体として、調整後 EBITDA は 19 パーセント減の 20 億 700 万ユーロ（2012 年：24 億 6,700 万ユーロ）、調整後 EBIT は 25 パーセント減の 14 億 2,400 万ユーロ（2012 年：18 億 8,700 万ユーロ）でした。調整後 EBITDA マージンは 15.6 パーセント（2012 年：18.5 パーセント）となり、引き続き好調な水準を保っています。

純利益は大幅に改善

継続事業の税引前利益は、46 パーセント減の 8 億 3,600 万ユーロ（2012 年：15 億 5,600 万ユーロ）となりました。これは、業績が芳しくなかったことと一回限りの調整費用が大きくなったためです。マイナス 3 億 3,300 万ユーロの調整が、営業外利益と元来一回限りか稀である費用項目のネットバランスとなっています。その主な内訳は、再編費用、その中でも特に管理部門およびサービス部門の効率化に関わる費用とスペシャルティマテリアルズ部門の生産工場閉鎖に関連した費用、エネルギー効率化部門およびスペシャルティマテリアルズ部門の生産工場に関する減損損失、そして、かつての非中核事業の売却に関係した費用などを含むその他の費用となります。

非継続事業の税引前利益は総額 13 億 9,700 万ユーロ（2012 年：6,500 万ユーロ）で、その内訳は主に 2013 年 7 月に完了した不動産部門の過半数の株式の売却益となっています。そのため、純利益は 76 パーセント増の 20 億 5,400 万ユーロ（2012 年：11 億 6,500 万ユーロ）となりました。

こうした業績の結果、調整後当期純利益（調整と非継続事業いずれの要因も含まれないため、不動産部門の売却益は含まれていない）は 23 パーセント減の 8 億 3,000 万ユーロ（2012 年：10 億 7,600 万ユーロ）でした。調整後の一株当たり利益は、2.31 ユーロから 1.78 ユーロに下がりました。

2014 年 5 月 20 日に開催される年次株主総会で、取締役会と監査役会は一株当たり 1.00 ユーロ（2012 年：0.92 ユーロ）の配当を提案する予定です。

高い資本収益 – 最初の大型成長プロジェクトが完了

使用資本利益率（ROCE）が 14.5 パーセントであるエボニックは、税引前で 10.5 パーセントの資本コストを大幅に上回る高い利益を投下資本から生み出しました。極めて高かった前年の水準（20.4 パーセント）から下がった要因の一つには、営業収益の減少と、調整後 EBIT には影響がまだ及んでいない設備投資に伴う資本支出の増加が挙げられます。

2013 年の継続事業の営業活動によるキャッシュフローは、前年比 3 億 900 万ユーロ減の 10 億 8,600 万ユーロでした。非継続事業のキャッシュフローを含めた場合の営業活動によるキャッシュフローは、3 億 3,700 万ユーロ減の 10 億 8,300 万ユーロでした。資本支出は前年比 18 パーセント増の 11 億 3,500 万ユーロ（2012 年：9 億 6,000 万ユーロ）でしたが、これは主に戦略的成長プロジェクトのためです。

現在、エボニックは総額 60 億ユーロ超の投資プログラムに取り組んでいます。最初の大型プロジェクトは、2013 年に完了しました。そうしたプロジェクトには、サウジアラビアのジョイントベンチャーパートナーと建設した高吸収性樹脂の製造プラントや上海（中国）における特殊界面活性剤の生産設備などが関わっています。吉林（中国）の過酸化水素製造プラントは 2014 年初めに完成し、シンガポールの新しいメチオニンプラントは 2014 年下期に操業を開始する予定です。

現在計画されている他の投資プログラムに関しては慎重な姿勢で臨み、市況変化のためまだ着手されていないプロジェクトについても検討をしていく予定です。投資案件のための資金に関してはその大半をキャッシュフローでまかなうことを意図しており、そのため、2014 年の資本支出は上限を 14 億ユーロとして予算が組まれています。

財務状況の大幅な改善

エボニックは、財務状況を大幅に改善しました。2012 年末時点では 11 億 6,300 万ユーロの純金融負債を抱えていましたが、2013 年末時点では 5 億 5,200 万ユーロの純金融資産を有しています。これは、主に不動産部門の売却とそれに伴う部門の非連結化によるものです。

研究開発の更なる加速化

その戦略的重要性から、研究開発費は 2009 年以降平均して年率 9 パーセントの割合で増え続けてきました。2013 年の総額は、前年の 3 億 8,200 万ユーロから増額となり 3 億 9,400 万ユーロを計上しました。売上高研究開発比率は 3.1 パーセントでした。魅力的なイノベーションが、今後もエボニックの成長戦略の下支えとなるはずです。研究開発パイプラインは、500 件近いプロジェクトを擁する豊富な内容となっています。最近の研究開発の重点事項としては、養殖用飼料添加物として利用可能な新しいアミノ酸、窓用の高透過性の断熱材、自動車業界等向けのポリアミド 12 を生み出す、石油由来のラウリンラクタムの代替としてのバイオベースのアミノラウリン酸などが挙げられます。

2013 年度の部門別概況

コンシューマー、ヘルス＆ニュートリション部門

コンシューマー、ヘルス＆ニュートリション部門は、消費財、畜産動物の栄養に関連する製品、医薬品セクター用途のスペシャリティケミカルを生産しています。この部門は、コンシューマースペシャリティ ビジネスユニットとヘルス＆ニュートリション ビジネスユニットから構成されています。

販売数量の著しい伸長および高い収益

旺盛な世界需要や新しい生産能力のおかげで、コンシューマー、ヘルス＆ニュートリション部門は販売数量で著しい伸長を果たしました。とりわけ、高吸収性樹脂とパーソナルケア製品の需要は明らかに高まっています。動物飼料用アミノ酸を中心として全体の販売価格が下がっているため、同部門の売上高は前年（2012 年：42 億 400 万ユーロ）と同水準の 42 億 700 万ユーロでした。

このように業績自体は好調だったものの、一部事業における販売価格下落のため極めて好調だった前年度の事業収益には及びませんでした。調整後 EBITDA は 14 パーセント減の 9 億 1,000 万ユーロ（2012 年：10 億 5,500 万ユーロ）で、調整後 EBIT は 17 パーセント減の 7 億 6,700 万ユーロ（2012 年：9 億 2,900 万ユーロ）でした。調整後 EBITDA マージンは、21.6 パーセント（2012 年：25.1 パーセント）となり極めて良好な水準を保ちました。ROCE は、34.3 パーセント（2012 年：48.7 パーセント）となっています。

エネルギー効率化部門

エネルギー効率化部門は、環境にやさしいエネルギー効率に優れたソリューションを提供しています。この部門は、インオーガニックマテリアルズ ビジネスユニットとコーティングス＆アディティブス ビジネスユニットのビジネスユニットで構成されています。

既存事業の売上高伸長 – 高い調整後 EBITDA マージン

エネルギー効率化部門の売上高は、2012 年（31 億 3,100 万ユーロ）と比べて 2 パーセント減となる 30 億 8,400 万ユーロでした。これは、主に為替相場の影響と 2012 年 4 月末に投資を引き上げた着色料事業の影響によるものです。これらの要因を調整した場合、同部門の既存事業の売上高は販売数の伸長と一定した販売価格が下支えとなり高まっています。フュームドシリカと特殊酸化物の売上は、高い需要と生産能力を十分生かしたことにより、特に好調でした。とりわけヨーロッパやアジアを中心としたタイヤ・ゴム業界のシリカとシランに対する需要増が、当該製品の好業績をもたらしています。同部門では、自動車、建設および運輸業界向けの潤滑油添加剤に加えて、コーティング業界や各種バインダーの旺盛な需要が続いています。

エネルギー効率化部門の事業収益も非常に良い結果となっています。調整後 EBITDA は 6 億 5,600 万ユーロで、6 億 6,300 万ユーロという前年度の水準にほぼ匹敵しています。調整後 EBIT は 3 パーセント増の 5 億 4,000 万ユーロ（2012 年：5 億 2,600 万ユーロ）でしたが、これは主に減価償却費が対前年度比で減少したためです。調整後 EBITDA マージンは、21.2 パーセントから 21.3 パーセントへ若干高まりました。ROCE は、33.0 パーセントから 35.7 パーセントへと改善しています。

スペシャルティマテリアルズ部門

スペシャルティマテリアルズ部門は、主にゴム・プラスチック業界向けとなるポリマー材料や中間体の生産がその中核を占めています。この部門は、パフォーマンスポリマーズ ビジネスユニットとアドバンスト・インターミディエイツ ビジネスユニットから構成されています。

販売価格の大幅な下落 ー売上高および事業収益ともに対前年比で減少

スペシャルティマテリアルズ部門の売上高は、7 パーセント減の 44 億 9,000 万ユーロ（2012 年：48 億 4,300 万ユーロ）となりました。これは、2012 年 12 月に中国での塩化シアヌル酸事業から撤退したことに加えて、特にブタジエンを中心とした販売価格の急落により既存事業の売上高が落ち込んだためです。それとは対照的に、販売数量は 2013 年初頭にマール（ドイツ）の CDT プラントで生産が再開したことに支えられてかなり増加しました。過酸化水素事業は安定しており、特にエボニックと ThyssenKrupp Uhde が開発した HPPO プロセスを用いた応用分野を中心として

需要が高まっています。バイオディーゼル生産用のアルコラートの需要も活況が続いています。

この部門の事業収益は極めて好調だった前年の水準を下回りましたが、これは主に販売価格が下落したためです。調整後 EBITDA は 35 パーセント減の 5 億 5,200 万ユーロ（2012 年：8 億 5,300 万ユーロ）で、調整後 EBIT は 44 パーセント減の 3 億 9,500 万ユーロ（2012 年：7 億 100 万ユーロ）でした。調整後 EBITDA マージンは、前年の 17.6 パーセントから下がって 12.3 パーセントとなっています。ROCE は、収益減と平均使用資本増のため 38.7 パーセントから 19.6 パーセントに下がりました。

サービス部門

サービス部門は、主にケミカル部門とコーポレートセンター向けのサービスを提供していますが第三者へのサービスも手がけています。

同部門の 2013 年売上高は、総額 26 億 8,000 万ユーロでした。内販が総額のうち 17 億 6,400 万ユーロを占めています。外販は需要上の理由から 8 パーセント減の 9 億 1,600 万ユーロでしたが、これは主に、顧客先の一つがマールにある生産設備を閉鎖したためです。事業収益が上向いたのは、主に各現場におけるコスト管理の改善がその下支えとなっています。調整後 EBITDA は 5 パーセント増の 1 億 8,200 万ユーロとなり、調整後 EBIT は 12 パーセント増の 8,700 万ユーロでした。

エボニックグループ：2013 年第 4 四半期

既存事業の売上高伸長

2013 年第 4 四半期も、販売数量は好調に推移し続けました。エボニックグループの既存事業の売上高は大幅な販売数量の増加（＋8 ポイント）が原動力となり 2 パーセント増となりましたが、販売価格は下落しました（－6 ポイント）。グループ全体で見た場合、売上高は 1 パーセント減の 31 億 3,500 万ユーロでした。これは、為替相場の影響（－1 ポイント）と、2012 年の業績には 2012 年に売却した中国の過酸化水素事業を含むその他要因（－2 ポイント）によるものです。

グループ全体の事業収益は前年度の極めて好調な結果を下回りましたが、これは主に一部の主要事業分野で販売価格が下がったためです。調整後 EBITDA は前年比 15 パーセント減の 3 億 8,600 万となり、調整後 EBIT は 26 パーセント減の 2 億 2,900 万ユーロでした。調整後 EBITDA マージンは 12.3 パーセントでしたが、これは前年度の 14.2 パーセントを下回っています。当期純利益は 63 パーセント減の 1 億 300 万ユーロで、調整後当期純利益は 20 パーセント減の 1 億 2,700 万ユーロでした。

効率性向上への集中的取り組み – Administration Excellence を始動

2012 年初めに導入された On Track 2.0 効率性向上プログラムは、順調に進行しています。このプログラムは、主に生産プロセスの一層の効率化を図ることを目的としたものです。プロジェクト開始から 24 カ月がたち、2016 年末に予定されている年間 5 億ユーロのコスト削減のうち年間 2 億 8,000 万ユーロ超を達成するべく、プロジェクトにおける数々の取り組みがすでに実施されています。

株式上場を成功させ、スペシャリティケミカル事業への集中を果たした後、競争力をさらに強化し管理部門におけるプロセスの質を向上させるため、エボニックは 2013 年 9 月に Administration Excellence プログラムを始動させました。このプログラムにより、2016 年末までに年間 2 億 5,000 万ユーロに及ぶコスト削減が図られます。Administration Excellence プログラムの取り組みの第一段階は、2013 年下期に実施されました。

2014 年の見通し

エボニックでは、2014 年のグループ全体の成長は主に先進諸国が下支えとなり若干持ち直すと予測しています。ただし、中央銀行が金融政策引き締めに打って出るかという点については依然としてかなりの不透明感があり、その動向によっては特に新興市場を中心として成長が妨げられる可能性があります。

売上高および収益

経済状況がわずかながら上向きになることを前提として、エボニックは 2014 年の売上高が若干増（2013 年：129 億ユーロ）になると予測しています。2013 年下期に見受けられた好調な販売数量の動向は 2014 年も続く見通しで、最初の成長プロジェクトの完了が下支えとなり販売数量はさらに増加するものと思われます。

2014 年の販売価格は、当社製品ポートフォリオの大半の分野で少なくとも安定して推移し続けることが見込まれます。それでも、一部の主要事業において 2013 年の平均を下回る可能性もあります。これは、2013 年上期に高い価格水準を維持していたことによりもたらされる影響です。

コスト面では、On Track 2.0 効率性向上プログラムでさらに改善が見られるはずです。それに加えて、エボニックでは管理部門の効率化を目指す Administration Excellence という新たな取り組みによっても、好影響が現れると予測しています。一方、マイナス要因としては、成長投資のために増加した費用や為替相場の影響などが挙げられます。

グループ全体で、調整後 EBITDA が 18 億ユーロから 21 億ユーロの間（2013 年：20 億ユーロ）になると見込んでいます。2014 年の収益を比較する際には、2013 年初めの高い販売価格水準に起因した収益水準を念頭に置くことが求められます。

エボニック グループ：損益計算書（抜粋）

（単位：100 万ユーロ）	2013 年 第4四半期	2012 年 第4四半期	増減（%）	2013年	2012年	増減（%）
売上高	3,135	3,178	-1	12,874	13,365	-4
調整後 EBITDA	386	452	-15	2,007	2,467	-19
調整後 EBIT	229	310	-26	1,424	1,887	-25
調整	-6	37		-333	-10	
純金融費用	-54	-82		-255	-321	
税引前利益（継続事業）	169	265	-36	836	1,556	-46
法人税等	-40	3		-220	-453	
税引後利益（継続事業）	129	268	-52	616	1,103	-44
税引後利益（非継続事業）	34	22		1,397	65	
税引後利益	163	290	-44	2,013	1,168	72
非支配持分	-60	-13		41	-3	
＝当期純利益	103	277	-63	2,054	1,165	76
調整後当期純利益	127	159	-20	830	1,076	-23

前年度の数値は修正後のものです。

事業部門別の業績

	売上高			調整後EBITDA		
（単位：100 万ユーロ）	2013 年 第4四半期	2012 年 第4四半期	増減（%）	2013 年 第4四半期	2012 年 第4四半期	増減（%）
コンシューマー、ヘルス&ニュートリション	1,072	1,039	3	204	229	-11
エネルギー効率化	717	692	4	140	117	20
スペシャリティマテリアルズ	1,059	1,123	-6	95	174	-45
サービス	239	270	-11	25	22	14
その他事業	48	54	-11	-78	-90	
グループ全体	3,135	3,178	-1	386	452	-15
	売上高			調整後EBITDA		
（単位：100 万ユーロ）	2013年	2012年	増減（%）	2013年	2012年	増減（%）
コンシューマー、ヘルス&ニュートリション	4,207	4,204	0	910	1,055	-14
エネルギー効率化	3,084	3,131	-2	656	663	-1
スペシャリティマテリアルズ	4,490	4,843	-7	552	853	-35
サービス	916	999	-8	182	174	5
その他事業	177	188	-6	-293	-278	
グループ全体	12,874	13,365	-4	2,007	2,467	-19

前年度の数値は修正後のものです。

エボニック グループの事業部門別社員数

	2013年12月31日	2012年12月31日
コンシューマー、ヘルス&ニュートリション	7,150	6,821
エネルギー効率化	5,854	5,755
スペシャリティマテリアルズ	6,268	6,134
サービス	12,192	11,900
その他事業	1,531	1,424
継続事業	32,995	32,034
非継続事業	655	1,264
グループ全体	33,650	33,298

前年度の数値は見直したものです。

以上

エボニック インダストリーズについて

ドイツのクリエイティブな産業グループであるエボニックは、スペシャルティケミカルの世界的リーダーです。私たちの活動はヘルス・ニュートリション、エネルギー効率化、グローバリゼーションといった世界のメガトレンドに集中しており、企業の有益な成長と企業価値の増大は私たちが目指す戦略の大事な根幹となります。エボニックは革新的なプロセスと統合的な技術プラットフォームを強みとしています。

エボニック インダストリーズは世界100ヶ国以上で活動しており、2013年度は33,500人以上の社員を有し、総売上高は129億ユーロ、EBITDA（金利・税金・償却前利益）は20億ユーロを計上しました。

免責事項

このプレスリリースに記載されている見通しや期待、または将来の予測に関する記述は、既知または未知のリスクと不確実性を含む可能性があります。実際の結果や発展は事業環境の変化により異なる場合があります。エボニック インダストリーズ AGはこのリリースに含まれる見通し、期待、記述に関して、更新の義務を負いません。

（このプレスリリースは2014年3月7日にドイツで発表されたものの翻訳版です）